

事業概要

北海道ガス株式会社 (2023年3月末現在)

本社 札幌市東区北7条東2丁目1-1
TEL.0570-008800(代表)
設立 1911年(明治44年)7月12日
資本金 7,515,830千円
従業員 907名
主な事業内容 1.ガス事業
2.電気供給事業
3.熱供給事業
4.ガス機器の製作・販売およびこれに関連する建設工事
5.その他の関連事業

ガス事業

供給区域 札幌市、小樽市、函館市、千歳市、石狩市、
北広島市、恵庭市、北斗市、北見市
販売量 6億2千7百万m³ (2022年度)

電力事業

供給区域 北海道全域(離島を除く)
販売量 9億7千9百万kWh (2022年度)

各事業所

札幌東ビル 札幌市厚別区大谷地東1丁目3-1

各工場

石狩LNG基地 石狩市新港中央4丁目3743
函館みなと工場 函館市港町3丁目19-8
北見工場 北見市中ノ島町1丁目3-12

ショールーム・各支店

北ガスショールーム 札幌市中央区北1条東4丁目
SAGATIK(サガティック) サッポロファクトリー1条館3階
TEL.011-207-4040

小樽支店 小樽市入船4丁目33-1 TEL.0134-24-1511
函館支店 函館市万代町8-1 TEL.0138-41-3175
千歳支店 千歳市清水町1丁目1-1 TEL.0123-26-8600
北見支店 北見市北7条東1丁目1-1 TEL.0157-25-3660

北ガスグループ会社 (2023年4月1日現在)

●…連結子会社 ▲…持分法適用関連会社 ★…持分法非適用非連結子会社

ガス機器販売、ガス工事、メンテナンス、安全点検、リフォーム等

● 北ガスフレアスト株式会社

▲ 北ガスフレアスト北株式会社

▲ 北ガスフレアスト函館南株式会社

▲ 北ガスフレアスト函館北株式会社

★ 北ガスフレアスト北見株式会社

LPガス供給事業、石油製品の販売等

● 北ガスジェネックス株式会社

★ 酪農協販商事株式会社

ガス工事、エネルギー設備工事等

● 北ガスジープレックス株式会社

検針、ITソリューション、保険代理業等
● 北ガスサービス株式会社

LPG配達

▲ 株式会社エネルギー・エナジーサプライ

賃貸住宅の企画・開発、入居者向けくらしサービスの提供等
★ 北ガスライフポート株式会社

エネルギー・サービス事業

● 株式会社エナジーソリューション

● 株式会社北海道熱供給公社

▲ 株式会社サッポロエネルギー・サービス

木質燃料を使用したバイオマス発電、電力・熱の供給および販売
▲ 苦小牧バイオマス発電株式会社

基地設備の所有・賃貸、LNGの出荷・輸送管理、LNGの卸販売等
● 北海道LNG株式会社

釧路LNGターミナルの運営
▲ 釧路エルエヌジー株式会社

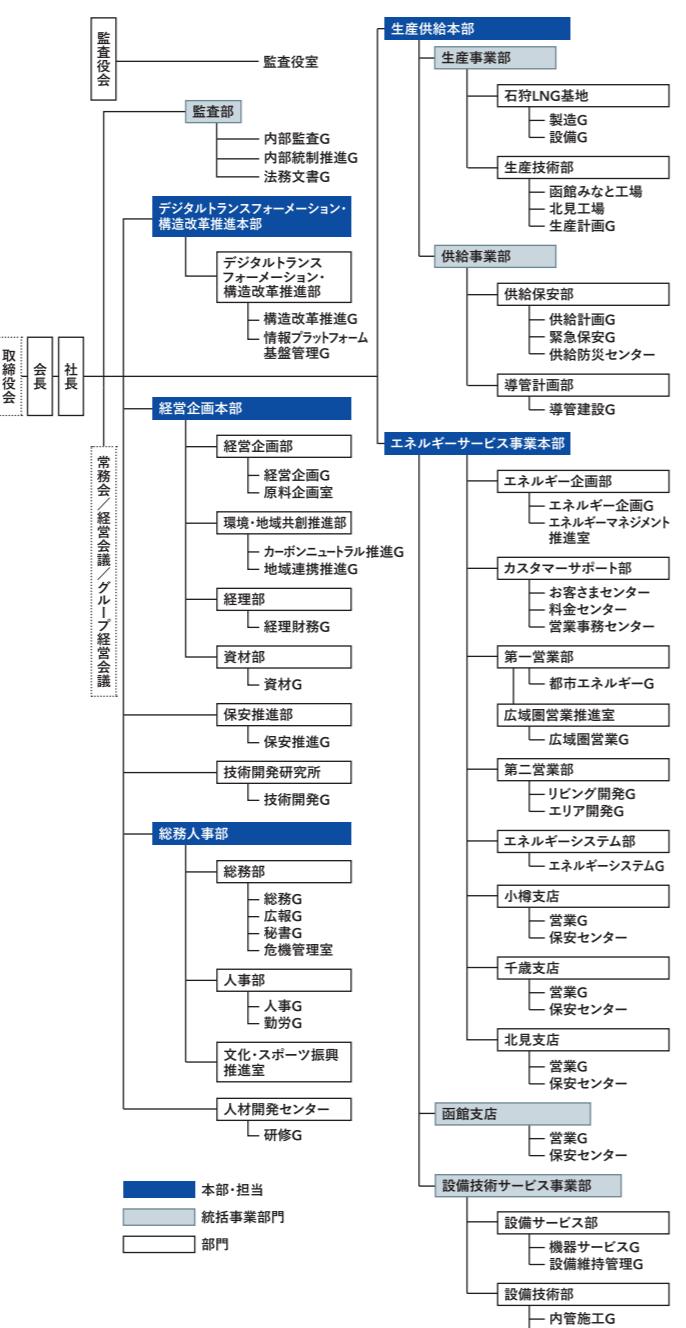
都市ガス・液化石油ガスの製造・供給・販売等
▲ 室蘭ガス株式会社

北ガスグループ会社の詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.hokkaido-gas.co.jp/ir/company/group>



業務組織図 (2024年4月1日現在)

※最新のデータに関しては北ガスホームページをご覧ください。



北ガスグループ 環境報告書 2023



ともに、未来へ。

次世代へ続く、環境にやさしく快適な暮らしを実現。

北ガスグループは、「総合エネルギーサービス事業」を展開し、
お客さまとともに、北海道に最適なエネルギー社会をつくり上げます。

地球環境問題は顕在化し、世界は脱炭素化に向けて動き始めています。

こうした中、北ガスグループは、積雪寒冷地北海道に根差す企業として、
「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」に向けた
取り組みを進めています。

2050年以降のカーボンニュートラル時代を展望し、
あらゆる可能性を探りながら、省エネ・低炭素化・脱炭素化に取り組み、
新たなエネルギー社会をお客さまとともにつくり上げてまいります。

環境基本理念

北海道ガス株式会社は、地域および地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、
効率的かつクリーンなエネルギーの供給を柱として、環境調和型社会の実現に寄与します。

環境行動方針

- ・エネルギーの効率的利用と天然ガスの導入により、地球温暖化防止に寄与します。
- ・事業活動にともなう廃棄物の排出量抑制と再資源化に努め、省資源化を推進します。
- ・環境保全に寄与する技術の開発と普及に努めます。
- ・地域貢献および国際協力に努めます。
- ・環境マネジメントの充実を図ります。

Top Commitment

お客さま、地域のご期待に応えられるよう
大きいなる可能性にチャレンジし続けます

過去とは比べ物にならないほどのスピードで変わる時代の中、私たちはその先頭に立ち続け、変革を起こしていきたいと考えています。そして、2050年以降のカーボンニュートラル社会を展望しつつ、2030年を中心とした位置づけた北ガスグループ経営計画「Challenge2030」で掲げたように、北ガスグループでは天然ガスのより一層の普及拡大を推進。機能的で効果的な省エネの訴求、北海道の地域エネルギーの活用による分散型社会の形成を図るとともに次世代技術にも挑戦するなど、あらゆる可能性を追求しながらカーボンニュートラル社会への備えを具体的に進めます。

また、「デジタル技術の最大限の活用」をベースとし、お客さまへの最適なアプローチを実現するために寒冷地の暖房エネルギーの省エネに取り組む「EMINEL(エミネル)」や、個々のお客さまに省エネアドバイスを行う「TagTag(タグタグ)」などを中心に「お客さまとの関係強化」の施策をさらに強力に推進いたします。

道内各地域との連携にも力を注ぎ、太陽光や風力、畜産バイオガスなど地域資源の有効活用をサポートし、持続可能な活力あるまちづくりにともに取り組んでまいります。

私たちは、総合エネルギーサービス事業を全道で展開しながら、お客さまのご期待に応えられる企業グループとして「Challenge2030」の達成を目指して大きいなる可能性にチャレンジを続けてまいります。



北海道ガス株式会社
代表取締役社長 川村 智郷

Contents

環境基本理念／環境行動方針	02	まちと、ともに	06	次世代と、ともに	14
Top Commitment	03	お客さまと、ともに	08	持続可能な社会と、ともに	16
持続可能な社会へ	04	地域と、ともに	10	事業概要	

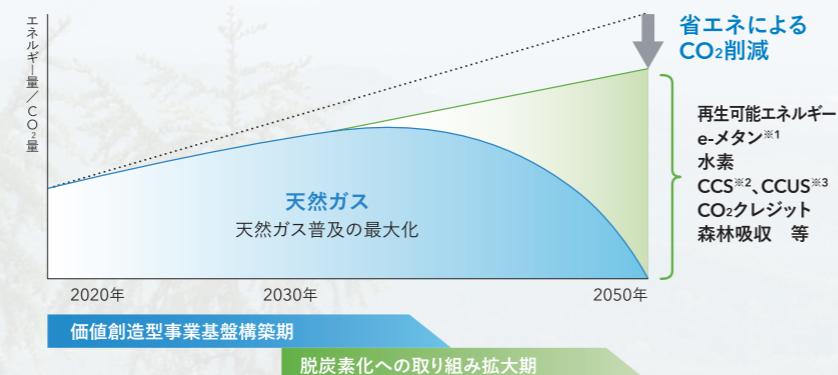
持続可能な社会へ

持続可能な社会を構築するには、低・脱炭素社会の実現を目指した取り組みが不可欠です。北ガスグループは、総合エネルギー・サービス事業の推進により、事業成長を図りながら脱炭素社会への備えを進めています。

低・脱炭素社会への備えを推進

2050年以降のカーボンニュートラル時代を見据えて

2030年以降のCO₂ピークアウトを目指し、天然ガス普及の最大化を推進。2050年以降のカーボンニュートラル時代に向けて、再生可能エネルギーをはじめとする次世代エネルギーの普及や森林吸収価値の活用等を進めています。



*1 e-メタン: 再生可能エネルギーから製造する水素と、CO₂から生成される合成メタン。

*2 CCS: 工場や発電所から排出されたCO₂を回収し、地中深くに貯留する技術。

*3 CCUS: 排気ガスに含まれるCO₂を分解・回収し、資源として作物生産や化学製品の製造に有効利用する、または地下の安定した地層の中に貯留する技術。

需要と供給を最適化する次世代プラットフォームの構築

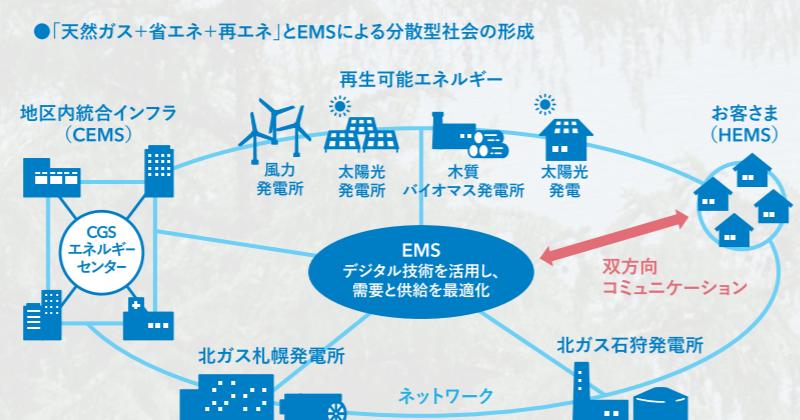
カーボンニュートラルを目指した取り組みの基盤となるのが次世代プラットフォームの構築です。

原料調達から生産、供給、お客さまの利用状況まで、あらゆる情報をデジタルでつなぎ合わせて需要と供給を最適化し、省エネの定量化と価値化を図ります。



北ガスグループが目指すエネルギー社会の姿

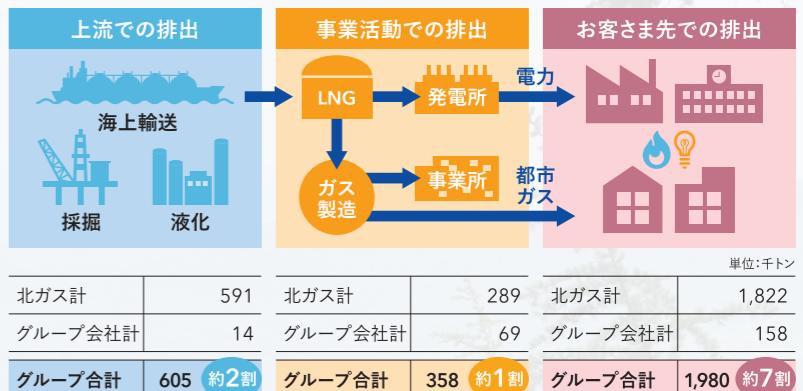
北ガスグループが目指すのは、エネルギーの消費側と供給側の全体で考え、「経済性」「環境性」「持続性」に優れた最もエネルギーで快適な暮らしを実現する新たなエネルギー社会を創造することです。天然ガスコージェネレーション等の分散型エネルギーの普及をはじめ、エネルギー・マネジメントシステム(EMS)の構築、地産地消の再生可能エネルギーの積極的な活用等を推進しています。



北ガスグループサプライチェーンのCO₂排出実績(2022年度)

北ガスグループサプライチェーンの2022年度CO₂排出実績

北ガスグループサプライチェーンのCO₂排出割合は、上流における排出が約2割、事業活動に伴う排出が約1割で、お客さま先における排出が約7割を占めています。北海道の低・脱炭素化に向けて、お客さま先におけるCO₂排出を含めた削減に取り組んでいます。



上流・お客さま先まで含めたCO₂排出量は約294万トン

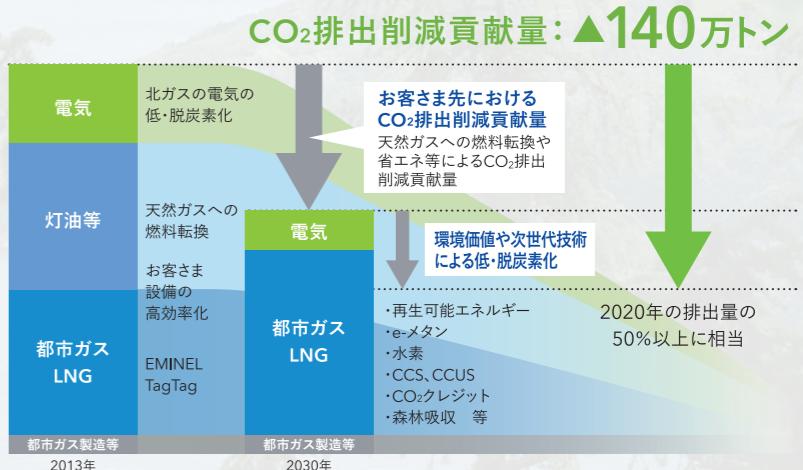
事業活動におけるCO₂排出量削減

「北ガス石狩発電所」「北ガス札幌発電所」では、高効率ガスエンジンによる天然ガスコージェネレーションシステムを採用しており、発電時に発生する排熱を石狩LNG基地のガス製造用熱源や、北海道熱供給公社の中央エネルギーセンターが札幌都心部に供給する熱の一部として有効活用し、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2030年度の目標

天然ガスへの燃料転換、再エネ電源の導入、設備の効率化等を推進することにより、2030年のCO₂排出削減貢献量の目標を140万トンと設定いたしました。これは、2020年の北ガスグループにおけるサプライチェーンCO₂排出量の約半分に相当します。

この目標を達成するため、次世代技術に果敢に挑戦し、道内におけるカーボンニュートラルの取り組みをけん引していきます。



CO₂排出削減貢献量: ▲140万トン

省エネ型社会を推進する2022年度までの取り組み実績

徹底した省エネ推進・燃料転換

天然ガスの普及拡大	都市ガス販売量 6.3億m ³
お客さま設備の高効率化	エコジョーズ 4万9千件
ガスマイホーム発電・CGSの普及	ガスマイホーム発電 7千件
EMINEL・TagTagによる省エネ	EMINEL 1.6千件

「北ガスの電気」の低・脱炭素化

「北ガスの電気」のお客さま拡大	電力お客さま件数 23万件 天然ガス発電所 11万kW コレモ余剰電力買取 5.7千件
再生可能エネルギー電源の取得	再生可能エネルギー電源導入 1.4万kW

環境価値の活用

環境価値付のエネルギー	カーボンニュートラル天然ガス販売開始
お客さまとともに環境価値を創出	北ガスエコライフメンバーズ募集開始
森林吸収価値の活用	森林を取得(142.8ha) CO ₂ 吸収量をJ-Credit化



まちと、ともに

北ガスグループでは、天然ガス普及の最大化や多様
コーチェネレーションの普及拡大により持続可能なまち

なエネルギー源の確保、
づくりに取り組みます。

天然ガス普及の最大化と多様な電源の整備

環境にやさしい「天然ガス」への転換

天然ガスは、石炭や石油に比べ燃焼時のCO₂やNOx(窒素酸化物)の発生量が少なく、大気汚染につながるSOx(硫黄酸化物)や煤じん(煙やスス等の微粒子)が発生しません。北ガスグループでは、北海道において環境面やエネルギー安定供給面で重要な役割を果たすと考え、天然ガスの普及拡大を推進しています。



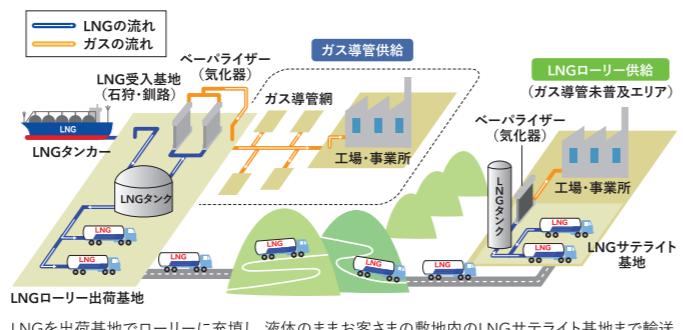
※出典：IEAおよび日本エネルギー経済研究所

石狩LNG基地
北海道で唯一の大型LNG輸入基地。都市ガスの原料となるLNGをオーストラリア等から輸入・貯蔵し、都市ガスを製造して、パイプラインを通じて道央圏へ供給しています。ローリー車や専用タンカー(内航船)によるLNG出荷設備も備え、道内の各都市ガス事業者へ向けたLNG出荷やLNGサテライト供給にも対応しています。

産業分野での天然ガス利用とLNGサテライト供給

天然ガスは、産業用としてもご利用いただいており、環境性、省エネ性、供給安定性のほか、燃料タンク等のスペースが必要である等の取り扱いの容易さが高く評価されています。また、ガス導管網が整備されていない地区の産業用のお客さまを中心に「LNGサテライト供給」を行っています。天然ガスをタンクローリー等でお客様の敷地内に設置されたLNGサテライト基地へ輸送することで、遠隔地での天然ガス利用を実現しています。

安定した供給を図るため、LNGサテライト基地に遠隔監視システムを設置したり、LNGローリー車の位置情報を常時確認するLNGローリー監視システムを導入する等、安全面の体制も整えています。



再生可能エネルギーを活用した多様な電源の整備

北ガス石狩発電所の天然ガスコーチェネレーション、苫小牧バイオマス発電所のバイオマス発電等、天然ガスや再生可能エネルギーを活用した多様な電源の整備を行っています。



まちで活躍する天然ガスコーチェネレーション

地域一体となって省エネを実現する「CEMS※」

●札幌都心部の地域熱供給ネットワーク(106ha)



北ガスグループでは、天然ガスコーチェネレーションを札幌市中心部で展開。冷暖房に必要な冷・温水を熱供給プロックを形成し、地域内の複数建物に供給しています。

※CEMS:Community Energy Management System(地域エネルギー管理システム)

46エネルギーセンターの概要

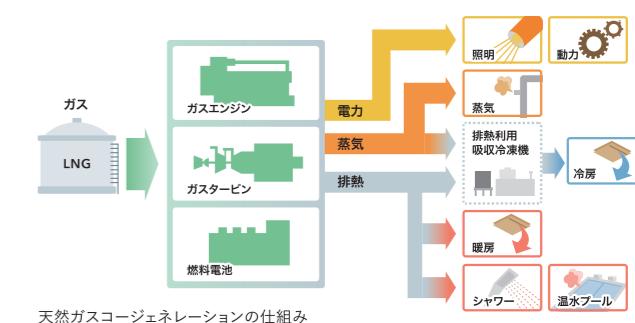
- 環境性に優れたエネルギー供給**
天然ガスコーチェネレーションシステム(CGS)と再生可能エネルギーを組み合わせ、エネルギーを地産地消しています。
- 北海道初導入「CEMS」の活用**
需要予測に基づいた省エネやピークシフトの働きかけ等、街区一帯で省エネ(約13%)・CO₂削減(約20%)を実証しています。
- 街区全体の強靭化**
耐震性に優れた中圧ガス導管と天然ガスコーチェネレーションシステムにより、安定的なエネルギー供給を実現しています。

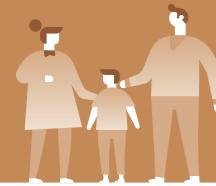
新さっぽろエネルギーセンターの概要

- スマートな統合型インフラの構築による低炭素コンパクトシティ**
AIを活用したエネルギーセンターの最適自動運転をはじめ、先進的なデマンドレスポンス等、需要・供給サイドが一体となった「次世代型CEMS」を導入し、エリア全体の省エネ、低炭素化を図り、街区全体でCO₂削減約35%を見込んでいます。
- 都市機能強靭化**
災害時に必要な電力、熱を街区内的施設に安定供給することで、都市機能の維持、街区周辺も含めた地域のレジリエンスを強化しています。
- 街区内外でのエネルギー連携**
街区外へ送電可能な天然ガスコーチェネレーションシステムと蓄熱システムが、街区外の再生可能エネルギーの発電状況と連携し、再生可能エネルギーを最大限かつ効率的に活用しています。

総合エネルギー効率を高めるコーチェネレーションシステム

コーチェネレーション(熱電併給)は、天然ガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる排熱も同時に回収するシステムです。回収した排熱を再利用することで、燃料が本来持っているエネルギーの約75~80%の総合エネルギー効率を実現し、大幅なCO₂削減効果が期待できます。





お客さまと、
ともに

北ガスグループは、最新の省エネ型機器やエネルギーCO₂排出量の削減に取り組み、お客さまとともに環境

効率アップを図る先進的サービスを通じて
価値の創出を目指します。

CO₂排出量の削減をより一層推進する取り組み

■ お客さまとともに環境価値を創出するサービス

● TagTag(タグタグ)

北ガスWEBサイト「TagTag」では、ガスや北ガスの電気の使用量・料金が確認できます。また、「類似家庭との比較」や「ホームエネルギー分析」ができるほか、個々のご家庭のデータに基づいた最適な省エネアドバイス等の情報をご提供します。



『省エネコミュニケーション・ランキング制度』
ガス・電気小売事業の両部門で全国唯一最高評価を
3年連続(2021~2023年度)で獲得

● EMINEL(エミネル)

北ガスが独自に開発したHEMS(家庭用エネルギー管理システム)。エネルギーの見える化に加え、暖房の自動省エネコントロールや省エネアドバイスの配信等の機能を持つ、業界初の寒冷地の省エネに寄り添ったHEMSです。

● 北ガスエコライフメンバーズ

EMINELをご利用のお客さまのうち、「北ガスエコライフメンバーズ」にご入会いただいた方を対象としたCO₂買い取りサービスの提供を開始しました。本サービスでは、北ガスがEMINELを通じて得られるエネルギーデータからお客さまのCO₂排出削減量をとりまとめ、J-クレジット制度※を活用して環境価値を創出。創出したJ-クレジットは、北ガスの事業活動に広く活用していきます。

※省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量をクレジットとして国が認証する制度。



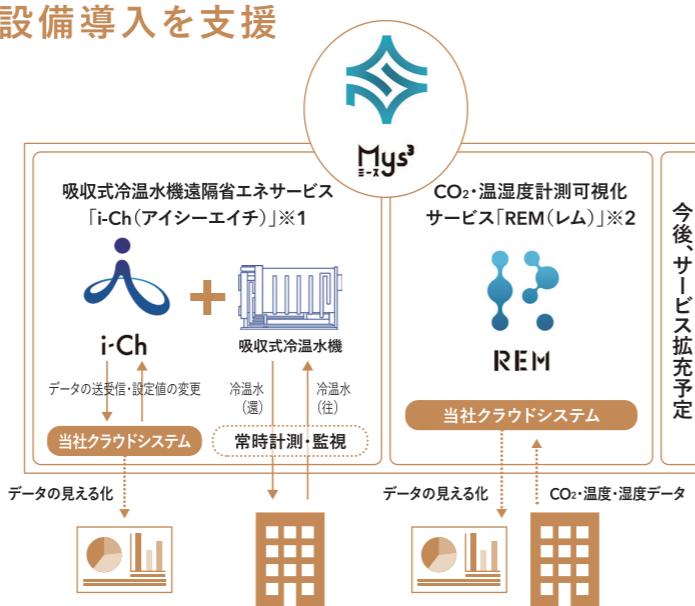
■ 業務用のお客さまの省エネ設備導入を支援

● Mys³

北ガスグループでは、脱炭素社会の実現に向け、業務用のお客さまのさらなる省エネニーズにお応えするため、お客さまの設備変更や高額な投資を伴わず、簡便で安価に導入ができる新たなサービス「Mys³(ミース)」を立ち上げました。「Mys³」は、お客さまの省エネや業務効率化を支援する複数のサービスを含むブランド名であり、今後もさまざまなサービスを展開していく予定です。

※1 i-Ch(アイシーエイチ): お客さまの吸式冷温水機に制御装置を取り付け、冷温水の温度を常時計測し、自動で省エネ制御を行うサービス。

※2 REM(レム): 室内のCO₂、温度、湿度を計測し、可視化されたデータを提供することで省エネ効果の発現や快適性の向上を目指すサービス。



■ カーボンニュートラル天然ガス販売開始

カーボンニュートラル天然ガスとは天然ガスの採掘から最終消費までの過程で発生するCO₂を、世界各地における環境保全プロジェクトで創出されたCO₂クレジット(ボランタリークレジット)で相殺した「CO₂排出量実質ゼロ」の天然ガス。これまでの取り組みに加え、カーボンニュートラル天然ガスの供給を開始することで、北海道の低炭素・脱炭素化に向けた取り組みをさらに加速させていきます。

詳しくはこち
ら
<https://www.hokkaido-gas.co.jp/news/20220513>



各家庭のエネルギー効率を向上させるシステム

■ 「自宅で発電」を実現するガスマイホーム発電

● コレモ

ガスエンジンで発電し、その発生熱を暖房に有効活用する家庭用コーポレーションシステム。ご家庭で使用しなかった電気は北ガスが買い取り、北ガスの電気として利用します。また、従来モデルから耐久性・メンテナンス性を向上させることで長寿命化を実現しています。

● エネファーム

ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させて発電する家庭用燃料電池システムで、発電と同時に発生する熱を給湯に活用することでご家庭での省エネ、CO₂削減に貢献します。

● ダブル発電

太陽光発電とガスマイホーム発電のふたつで発電する仕組み。停電時には、ふたつの発電で作った電気が使えます。



詳しくはこち
ら
<https://motto.hokkaido-gas.co.jp/newhomes/w-hatsuden/>

■ 天然ガスによるセントラルヒーティングシステム

● ecoジョーズ～5万件達成～

省エネ型給湯暖房機「ecoジョーズ」は、排熱を回収し、効率的に給湯・暖房に有効活用します。2023年10月には、エコジョーズの累計設置件数(北ガス供給区域内、一戸建て住宅)が5万件達成したことを記念したセレモニーを開催しました。





地域と、ともに

北ガスグループは、住民の方々の気持ちを何よりも
ずっと住み続けたいと思えるまちづくりをサポートして

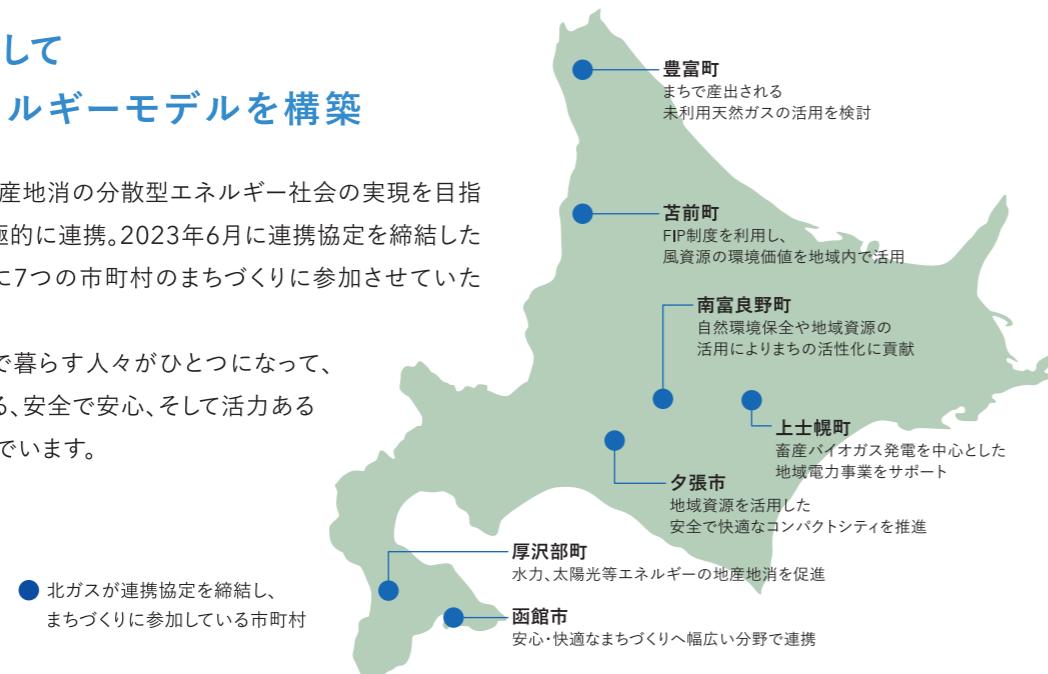
大切にしながら道内各地域との連携を強化し、
います。

エネルギーを地産地消する、持続可能なまちづくりへ

地域と連携して 分散型エネルギーモデルを構築

地域の特性を生かした地産地消の分散型エネルギー社会の実現を目指し、道内各地の自治体と積極的に連携。2023年6月に連携協定を締結した苦前町を含めて、これまでに7つの市町村のまちづくりに参加させていただいている。

自治体、地元企業、地域で暮らす人々がひとつになって、ずっと住み続けたいと思える、安全で安心、そして活力あるまちづくりにともに取り組んでいます。



地域に活力を届けるエネルギーモデルを創出

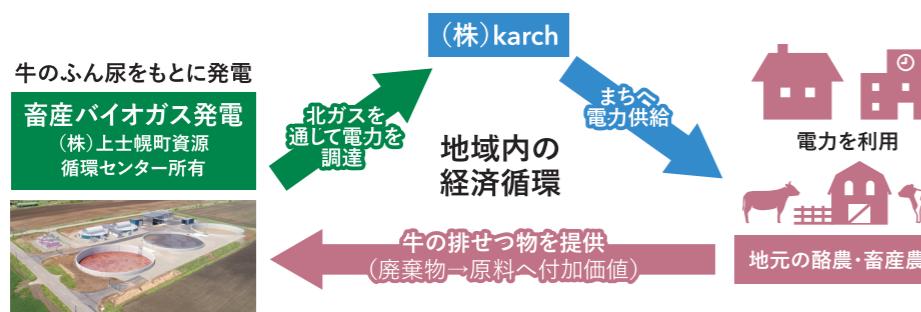
地域に賦存するエネルギー資源の地域内活用や地域の特色ある取り組みを進めながら、新しいビジネスを創出する等地方自治体のパートナーとして地域課題の解決に向けた対話を深めています。

PICK UP 1 | 上士幌町

牛のふん尿を活用した畜産バイオガス発電

酪農・畜産が盛んな上士幌町では、牛のふん尿から電気をつくる「畜産バイオガス発電」によるエネルギーの地産地消の取り組みを進めています。

地域新電力会社である「(株)karch(カーチ)」が、北ガスを通して調達した電力を「かみしほろ電力」として地元のお客さまへ供給。北ガスグループは、円滑な事業運営に向けて、需給管理をはじめ地域活性化モデルづくりをサポートしています。



PICK UP 2 | 苦前町

FIP制度を活用し、環境価値を創出する「風のまち」

北海道の北西部、日本海側の海岸線に位置する苦前町は、道内屈指の「風のまち」。まち特有の資源を風力発電として活用する再生可能エネルギー事業に20年以上にわたり取り組み、2022年には「ゼロカーボンシティ宣言」をしています。

2023年6月に、苦前町と北ガスグループは連携協定を締結。町内の「苦前夕陽ヶ丘風力発電所」の電力を「FIP制度」※を利用して北ガスで調達し、環境価値を持つ電気として町内で活用する取り組みを進めていきます。

※「FIP(Feed-in Premium)制度」とは再生エネルギーの自立電源化を目的として、固定価格買取(FIT)制度にかわり2022年4月から開始した制度



「住んでてよかった」と町民に喜ばれるまちづくりを北ガスグループと進めていきたい

海も山もあり、一年中風が吹き渡っている苦前町では、町民に風の恩恵を感じてもらいたいと全国に先駆けて風力発電事業を始めました。

送電網の整備やメンテナンス方法等さまざまな課題もありますが、すでに他の地域との連携を進めている北ガスグループはアイデアや実績が豊富で、地域を大切にしている姿勢が伝わってきます。今後、再生可能エネルギー事業を軸としたまちの活性化に向け、さらに信頼関係を重ねながら取り組んでいけると期待しています。

苦前町は、1次産業が盛んで後継者にも恵まれています。今後、大自然からのクリーンな農水産物をクリーンなエネルギーで生産・加工しているという付加価値をブランド化して全国へ発信、PRしていきたいと考えています。

このまちには、他にもたくさんの宝ものがあります。北ガスグループとともに、より多くの魅力を発掘して、町民に「住んでてよかった」と喜んでもらえるまちづくりを強く進めています。



苦前町 総合政策室
室長 加賀谷 之治 さま



地域と、ともに

PICK UP ③ | 南富良野町

活力あるまちづくりに貢献する「北ガスの森」

2021年6月、南富良野町と北ガスグループは連携協定を締結。協定の主な目的は、①地域の再生可能エネルギーを活用したエネルギーの地産地消の促進、②森林および関連する産業の維持発展、③道の駅を中心とした地域の公共施設等の災害強靭性向上の3つです。

②に関連して、北ガスグループは約142ヘクタールの「北ガスの森」を取得。森林のCO₂吸収価値創出等の知見を習得するとともに、まちと連携し、長期にわたり森林の管理・育成をしていくことで、自然環境保全・地域資源の活用による地域活性化に貢献しています。



森林が吸収するCO₂をクレジット化

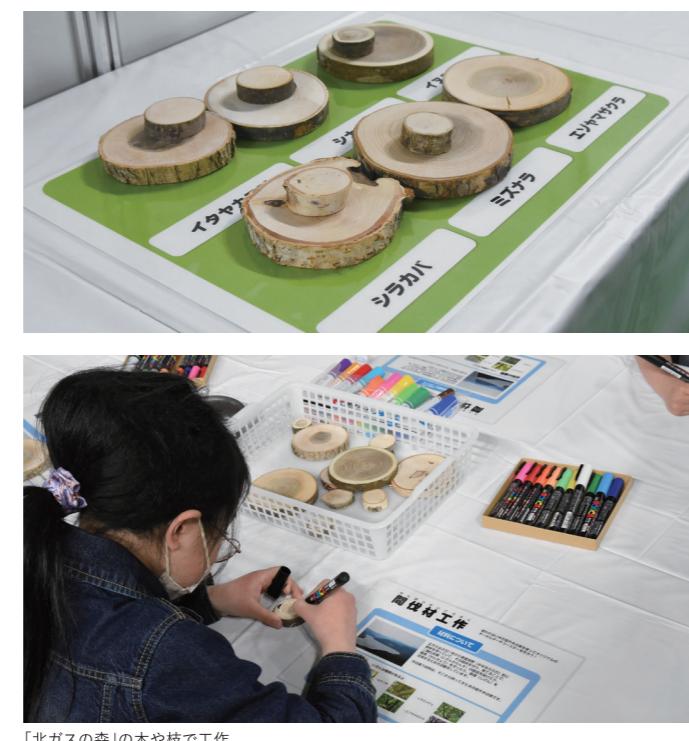
「北ガスの森」が吸収するCO₂量を見える化し、価値を明確にするためにJ-クレジット制度を活用しています。2021年11月、J-クレジット制度に『南富良野町「北ガスの森」CO₂吸収プロジェクト』を登録し、森林を継続的に維持管理することで吸収するCO₂のクレジット化を取り組んでいます。



『南富良野町「北ガスの森」CO₂吸収プロジェクト』でJ-クレジット制度に登録

森の恵みを楽しく活用

「北ガスの森」で集めた木や枝等は、「環境広場ほっかいどう2023」で開催したリサイクル工作教室で活用。子どもたちはキーホルダー作りを通して、森の恵みに直接触れながら環境保全の大切さを楽しく学んでいます。



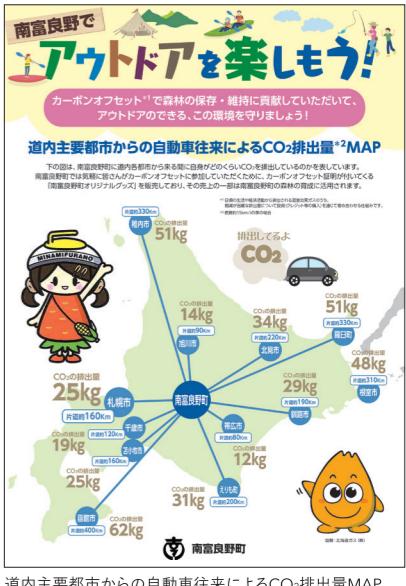
「北ガスの森」の木や枝で工作

全国初「カーボンオフセット カプセルトイ」を設置

2023年6月、南富良野町と北ガスグループは「道の駅南ふらの」に「カーボンオフセット カプセルトイ」を全国で初めて設置しました。カプセルトイ1つの購入でCO₂排出量20kgをオフセットできる仕組みで、まちを訪れた方々に気軽に環境について考えていただくのが目的です。カーボンオフセット分の売上金のすべてが、南富良野町内の環境保全に活用されます。

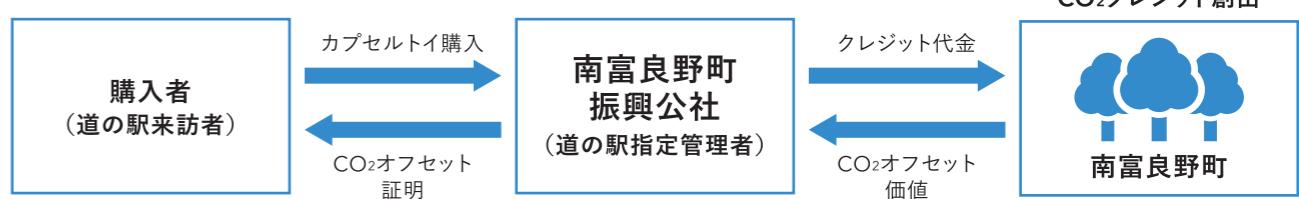


南富良野町のイメージキャラクター「南ちゃん」グッズがセットになったカプセルトイの自動販売機



道内主要都市からの自動車往来によるCO₂排出量MAP

カプセルトイの購入者がカーボンオフセットに参加できる仕組み



北ガスグループとの協働に期待がふくらんでいます

石狩山地や夕張山地、日高山脈の北端等四方を山に囲まれた南富良野町は、まちの中央に「かなやま湖」が広がり空知川が東西に貫流しています。自然豊かな北海道でも特徴的な地理環境の中、私たちは健全な森林の育成に日々努めています。

そして、2021年に「北ガスの森」が誕生。思いもよらなかった協働体制に心地よく驚くとともに、森の今と未来と一緒に考えるパートナーができて大変心強く感じています。

相互にアイデアや意見をざっくばらんに伝え合い、美しい環境を守りながらCO₂吸収量を最大化するにはどうしたらいいか等、難しい課題にも前向きに取り組んでいます。今後、まちの活性化につながるおもしろい展開をカタチにできるのではと北ガスグループとの協働に大いに期待しています。



南富良野町森林組合
北畠 琢郎さま

「かなやま湖」に生息する絶滅危惧種「イトウ」のキャッチ＆リリース等を通して、地域の自然史を体感。「ゆっくり大きな森に育てていきたい」



次世代と、
ともに

北ガスグループは、地域社会の一員として、地域を
次世代を担う子どもたちのため、教育活動や環境保全

サポートとともに
活動を推進しています。

子どもたちへの教育活動

TOPICS ① 環境関連イベントで 子どもたちの学びを応援

子どもたちにエネルギーと環境への関心を高めもらうことを目的とし、札幌ドームで開催される「環境広場ほっかいどう2023」に出展しています。リサイクル工作教室や環境クイズラリー等楽しいイベントを開催し、子どもたちの学びを応援しています。



さまざまなイベントでエネルギーについて考える機会を提供しています

TOPICS ② 出張授業で サイエンスショーを開催

子どもたちに科学の楽しさや環境・エネルギーの大切さを伝えることを目的に、小・中学校向けの教育プログラムを開催しています。出張授業では、学校に直接伺い、実験等を行うサイエンスショーを開催。子どもたちと一緒に未来を考える、楽しい科学の時間をお届けします。



出張授業「北ガスサイエンスショー」の様子

TOPICS ③ 子どもたちのイラストを LNGローリー車に

北ガスグループの北海道LNGは、子どもたちが未来へ駆せる真っすぐな思いを、LNGローリー車を通じてたくさんの方々にお届けすることで、2050年カーボンニュートラル時代を考えるきっかけになればとの考えから、子どもたちのイラストをLNGローリー車(2台)にデザインする企画を実施しました。「2050年の自分や一緒にいたい大切な仲間」をテーマにイラストを募集し、合計1,393作品の応募の中から車体に掲載する秀作120作品(60作品×2台)を選定。子どもたちの描いた未来が車体を彩っています。



完成したLNGローリー車を前に記念撮影

TOPICS ④ キッズサイト

北ガスの子ども向けWEBサイト「それいけ!!エネルギー探検団」は、エネルギーを感じてもらい、将来のために何ができるのかを自ら考え行動してもらうための学習サイトです。サイトの内容をまとめた副読本を作成し無料で配布しています。



循環型社会の実現を目指した環境負荷低減活動

廃棄物の削減やリサイクル活動を促進し、環境負荷の低減に努めています

北ガスグループでは、資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値を最大化することを目指す社会経済システムの形成を目指し、資源投入量・消費量を抑え、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止に貢献しています。

廃棄物の発生や騒音を抑える工法の採用

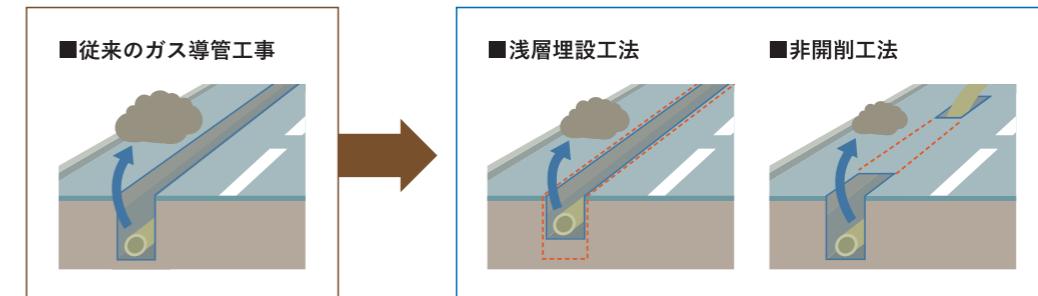
都市ガスをお客さまのお宅にお届けするガス導管工事では、アスファルトやコンクリート塊(アスコン)等の産業廃棄物や掘削土が発生します。そこで、ガス導管を浅く埋設する「浅層埋設工法」や路面の一部のみを掘削する「非開削工法」を採用。産業廃棄物や工事費を低減させるとともに、工期の短縮による交通混雑の緩和、騒音・振動の減少等大きな効果を上げています。

浅層埋設工法

寒冷地の凍土内での埋設環境について試験を行い、2002年4月から浅層埋設を実施しています。より浅く、狭く埋設することでアスファルト廃棄物や掘削土等を削減しています。

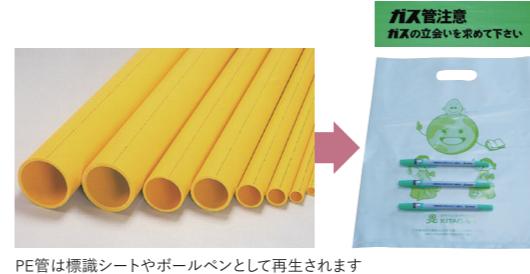
非開削工法

路面の一部のみを掘削してガス導管を通す工法です。既設管の内部に新しい管を引き込み埋設するパイプスピッターエクステンション工法、工事区間の両端に小さな穴を開けてガス導管を引き込むモール工法等を採用しています。



資源のリサイクルに取り組み、環境保全に貢献

ガス導管に使用しているポリエチレン(PE)管は、耐震性・耐腐食性に優れ、長寿命です。北ガスグループでは、PE管のリサイクルに積極的に取り組み、ガス導管埋設時の標識シートやボールペン等に再生しています。また、札幌の円山動物園のホッキョクグマやゾウのおもちゃに加工して贈呈しています。さらに、導管工事で発生したアスコンは再生プラントに搬入し、再生合板等に100%リサイクルされています。



PE管は標識シートやボールペンとして再生されます



ガス導管に使用している黄色いPE管

資源リサイクルの活動事例 円山動物園 ゾウ舎への寄贈

北ガスグループの北ガスジープレックスは、廃材となったPE管を加工したおもちゃを札幌市円山動物園に贈呈しています。丈夫で目立つ色のPE管はゾウの親子に好評です。





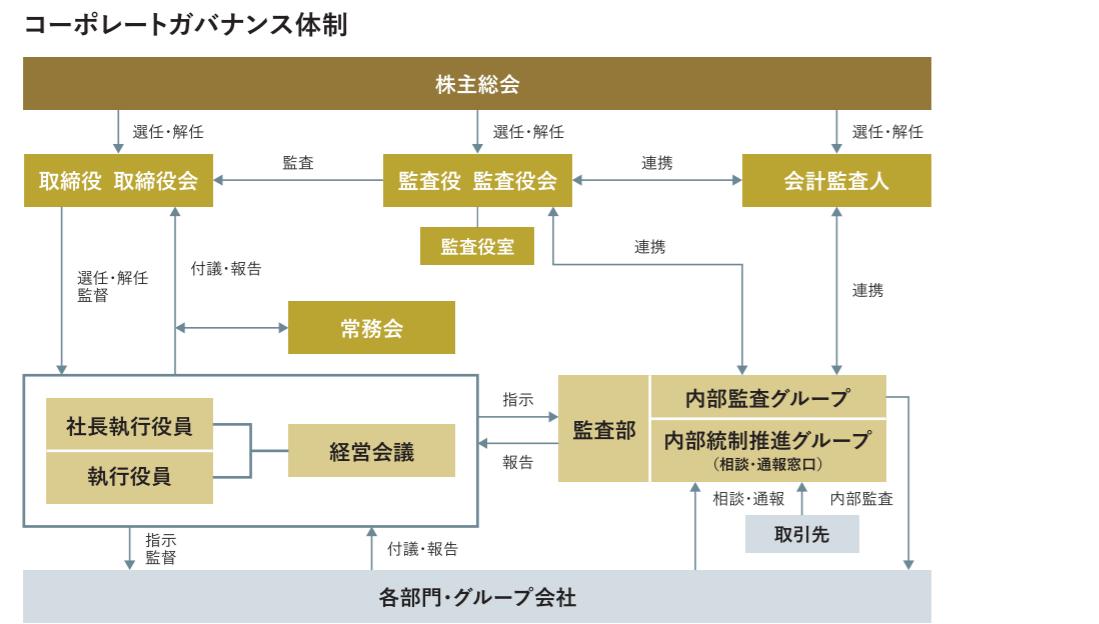
北ガスグループは、サステナビリティを巡る課題にまた、これらの課題が当社の事業活動に与える影響に

についてさまざまな取り組みを進めております。
について十分な分析を行ったうえで毎年度の事業計画を策定しております。

気候変動に関する情報開示

ガバナンス

エネルギーサービス事業を営む北ガスグループでは、気候変動に係るリスクや収益機会について、常に意識した事業活動を行っており、経営会議にてその影響や活動の状況を確認し、重要なものについては取締役会や常務会へ付議しております。



戦略

北ガスグループ経営計画「Challenge2030」において、省エネを基盤としてあらゆる手段、可能性を探りながら、脱炭素社会への備えを進めていく方針のもと、下記を主要戦略として取り組みを進めてまいります。

総合エネルギーサービス事業の進化による分散型社会の形成・地域との連携による地産地消のエネルギーモデルの構築

カーボンニュートラルへの挑戦

デジタル技術の活用による事業構造変革

総合エネルギーサービス事業の推進により徹底的な省エネを図るとともに、再生可能エネルギー電源の導入拡大や地域資源の活用、水素・メタネーション等の次世代技術にも取り組み、北海道の低・脱炭素化をけん引します。

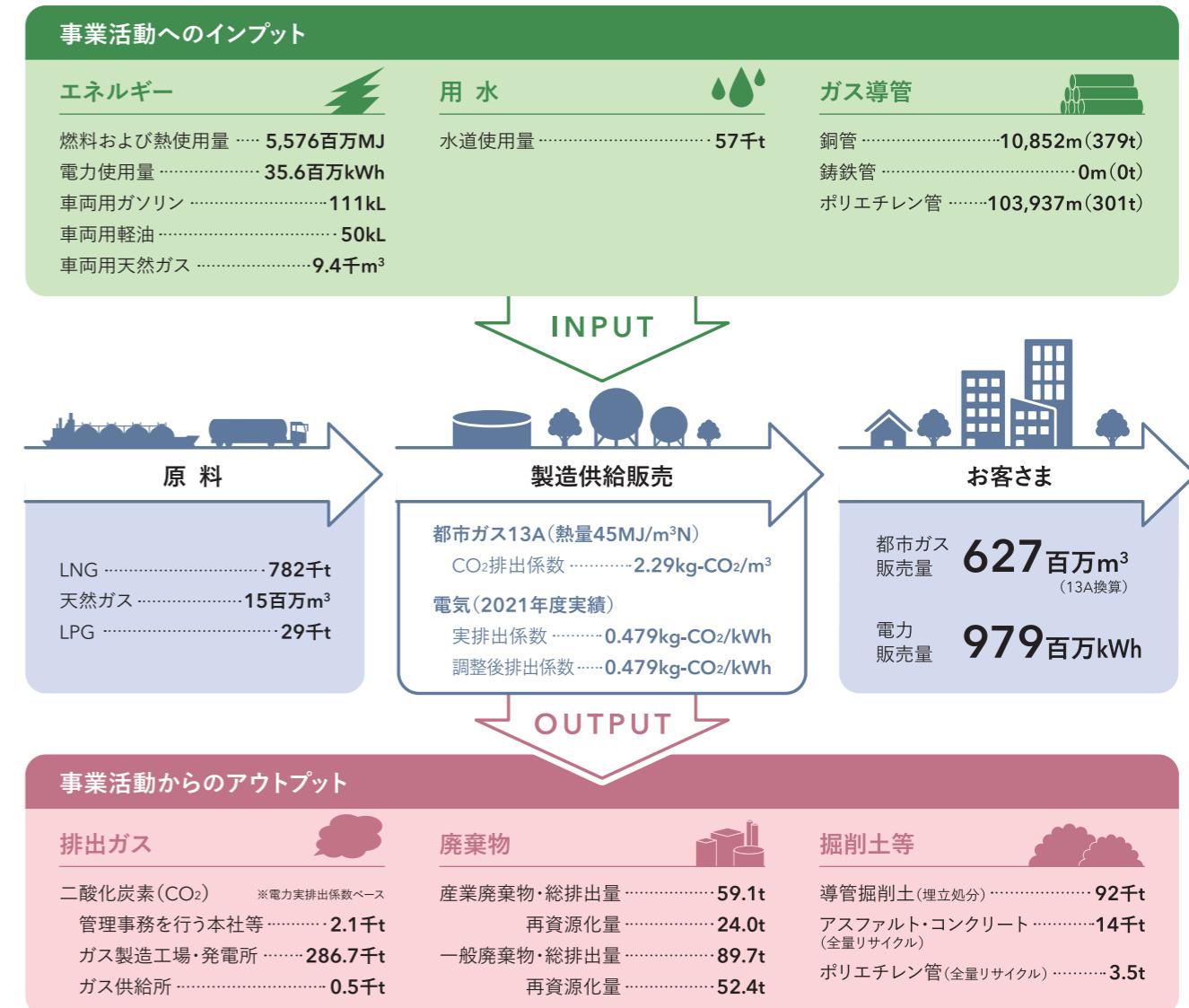
リスク管理

北ガスグループでは、事業リスクのひとつとして自然災害や気温影響等の気候変動を含むリスクについて特定・評価しており、各部門・グループ会社にてリスク低減に向けた対応策の検討やモニタリングを実施し、経営会議に報告のうえ、重要なリスクについては取締役会や常務会へ付議しております。

指標と目標

北ガスグループ経営計画「Challenge2030」において、2030年度のCO₂削減貢献量の目標を140万トンとして取り組みを進めております。なお、2022年度における北ガスグループのSCOPE1～3のCO₂排出量実績は、約294万トンです。

事業活動における環境負荷(2022年度実績・北ガス単体)



カテゴリ別のCO₂排出量(2022年度実績・北ガスグループ合計)

カテゴリ	内 容	CO ₂ 排出量
SCOPE1	ガス製造工場・発電所・事業所におけるガス使用等に伴う直接排出	336千t
SCOPE2	他社から供給された電力・熱の使用等に伴う間接排出	22千t
SCOPE3	LNG採掘・液化・輸送、お客様先でのガス使用等、上記以外の間接排出	2,585千t